

2025年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書

夏のトレーニングの成果を遺憾なく発揮!
Team HRSが総合ワン・ツー・スリーフィニッシュを決めた!!

9月20日(土) 公式予選 / 09:05~09:25 天候・路面:RAIN/WET

#51 長谷川蒼馬 2'37.643/5番手
#56 富樫虎太郎 2'38.379/6番手
#19 戸高綸太郎 2'40.716/10番手

#12 Pancharuch Chitwirulchat 2'45.034/13番手
#6 Pongkhun Aeimnoi 計測できず

3か月以上のインターバルを挟んで開催された鈴鹿サンデーロードレース第3戦。この間HRSモト アドバンスコース生はそれぞれの課題を克服するべく、酷暑の中スクールによる徹底的な走り込みを行い、自主トレーニングにも汗を流してきた。努力の成果を結果に残すべく、3名のライダーが予選に臨んだ。また今回は、タイホンダから2名のライダーが交換留学生として来日。Team HRS with Thai Hondaとしてレースに参戦する。

朝から降り始めた雨によりウェット宣言が出されたJ-GP3の予選。20分間のセッションが始まり、前戦で総合優勝を果たした#56富樫虎太郎、少し間を置いて、タイの交換留学生の#12Pancharuch Chitwirulchat、#6Pongkhun Aeimnoiの2名が続く。#51長谷川蒼馬、#19戸高綸太郎は集団を嫌い、さらに間を置いて、それぞれ単独でアタックを開始する。だがセッション開始直後、200RでAeimnoiが転倒を喫してしまう。ほぼ同じタイミングで130Rでもクラッシュがあり、ここで赤旗が提示された。

その後、セッションが進むにつれ、雨脚は少しずつ弱まった。路面のコンディションも変化し、ライバル勢もタイムを上げていく。そんな中、長谷川は3番手から5番手あたりのタイムでラップを重ね、セッション終了直前には2番手のタイムを記録する。だがラストラップでライバル勢もタイムアップし、長谷川のタイムは更新され、2列目5番グリッドからのスタートとなった。富樫はラストラップでベストタイムを記録するものの、長谷川のタイムを更新することができず予選6位。戸高は10位、Chitwirulchatは初めての鈴鹿サーキットながらも13位と健闘。2周目に転倒したことでタイムが記録されなかったAeimnoiは嘆願書によって決勝出走が認められ、19番グリッドから上位をうかがうことに。



 TAICHI

 Arai

 EARPEACE

 EIKO
Glory of Karting

 EXCEL
Motorsport

 NGK
SPARK PLUGS

 ENDLESS
Challenge to the Future

 HEDC
BATTERY

 FUSION

 Sabell

 CCI

 SHIBA LINING JAPAN
advanced technology products

 ThreeBond

 DUNLOP

 TODA
RACING

 IONY/KARL
TEL 03-351-1211

 TORAY
Toray Carbon Magic

 YAMAHA

 BRIDGESTONE

 PETRONAS
Syntium

 hit-air
RACE SUPPORT SYSTEM

 mooncraft

 rizoma

 WAKOS

2025年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書

9月21日(日) 決勝レース(フルコース10周) 天候・路面:Fine/Dry

- #56 富樫虎太郎 - 総合1位/ナショナル1位/NSFチャレンジ1位
#19 戸高 綸太郎 - 総合2位/インター1位/NSFチャレンジ2位
#51 長谷川蒼馬 - 総合3位/ナショナル2位/NSFチャレンジ3位
#12 Pancharuch Chitwirulchat - 総合10位/インター3位/NSFチャレンジ8位
#6 Pongkhun Aeimnoi - 総合13位/インター4位/NSFチャレンジ11位

前日とは打って変わって朝から快晴模様の鈴鹿サーキット。未明に降った雨によってコースには一部ウェットパッチが残るものの、ほぼドライといっているコンディション。午前9時15分、10週の決勝レースがスタート。2列目5番グリッドからスタートした長谷川が絶妙なスタートを切り、2コーナーでトップに踊り出る。長谷川の隣、6番手スタートの富樫もS字で長谷川の背後につける。その後方では戸高もポジションを大幅にアップ。富樫はオープニングラップのスプーンで長谷川をパス。長谷川も食らいつぐが、その差は徐々に開き始めていった。

富樫が早くも後方との差を広げていった2周目、3番手に上がった戸高が長谷川との距離を徐々に詰めていくと、レース中盤には長谷川の背後にピタリとつけ、以降両名はコーナーごとにポジションを入れ替える激しいバトルを展開していく。後方ではPancharuchが9番手にまで上がり、インタークラス表彰台の可能性も見えてきた。

独走状態を築いた富樫はその後も一切ペースを緩めることはなく、7周目にはコースレコードとなる2'19.575を記録し、2番手に23秒以上もの差をつけて圧勝。長谷川と戸高の2位争いは最終ラップにまでもつれ込み、ASTEMOシケイン進入で長谷川が戸高の前に出るが、立ち上がりでハイサイドで失速してしまう。そのミスを見逃さなかった戸高が長谷川を再びパスして2位でチェッカーを受けた。Pancharuchは10位でゴールし、インタークラス3位表彰台を獲得。最後列からのスタートとなったAeimnoiも着実に順位を上げ、13位でゴールしている。



インタークラス表彰
(1位・左) 戸高 綸太郎・(3位) Pancharuch Chitwirulchat



ナショナルクラス表彰
(1位・中央) 富樫 虎太郎 (2位) 長谷川 蒼馬

 TAICHI

 Arai
HELMET

 EARPEACE

 EIKO
Glory of Karting

 EXCEL
Motorsport

 NGK
SPARK PLUGS

 ENDLESS
Challenge to the Future

 HDC
BATTERY

 PUSH TACT
QUALITY

 Sabell

 CCI

 SHIBA LINING JAPAN
advanced technology products

 ThreeBond

 DUNLOP

 TODA
RACING

 IONY/KARL
TEL 03-350-23112

 TORAY
Toray Carbon Magic

 YAMAHA

 BRIDGESTONE

 PETRONAS
Syntium

 hit-air
HEAT SHIELDING SYSTEM

 mooncraft

 rizoma

 WAKOS

2025年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書



ナショナルJ-GP3クラス: 決勝総合1位 (ナショナル1位/NSFチャレンジ1位) ◎予選6位

富樫 虎太郎 (とがし こたろう) 14歳

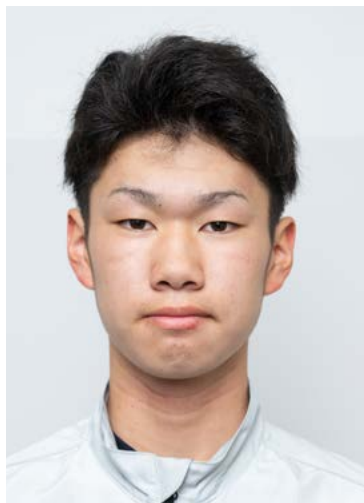
『今回は予選が雨でしたが、自分はずっと雨の鈴鹿が苦手ということもあり、弱いところが出てしまいました。ギリギリ2列目の位置にはつけられましたが、この苦手意識は克服しないといけないです。今後鈴鹿で雨の中走行する機会があれば、積極的に走って自分を追い込んでいきたいと思っています。決勝ではスタートで後続のライダーに前に出られてしまいましたが、自分のほうが速さはあったのですぐにパスして、スプーンで長谷川君もパスしました。単独になってからは後続やバトルといったようなことはあまり意識せず、自分の走りのみに集中していました。予選は雨だったのでレコードタイムは狙えませんでした。決勝はドライになったので、とにかくタイムに集中していました。とはいえ雨あがりでグリップがあまりよくなかったのも、無理はしないように注意して走り、あわよくばレコードを狙えるかと思っていました。最終戦は季節的に雨も少なそうですし、気温も低くなって走りやすくなっていると思うのでレコードを狙えます。そしてトップチェッカーでチャンピオンを決めたいです』



ナショナルJ-GP3クラス: 決勝総合3位 (ナショナル2位/NSFチャレンジ3位) ◎予選5位

長谷川 蒼馬 (はせがわ そうま) 14歳

『(金曜日の) 特別スポーツ走行では、単独走行でのタイムをこれまでよりも1秒近く縮めることができ、課題のクリアには近づいたのかなと思います。ですが富樫君の技術、スピードにはまだまだ及ばないと感じています。予選は苦手な雨でしたが、今回はなんとか雨の中の走らせ方が少し理解ができて、雨のレースに少しでも自信を持つことができました。決勝ではスタートが決まって、2コーナーでトップに立つことができ、スプーンまではトップを走りました。でもその後富樫君に抜かれ、追いかけるのに精一杯な状況で、後ろからは戸高君も迫ってきます。焦ってしまい、自分の悪いところばかりが出て、最終ラップのASTEMOシケインでも戸高君に仕掛けましたが、結局ミスで順位を落としてしまいました。課題としては走り出しのペースをもっと上げないといけません。この点に関しては以前からずっと課題でしたが、さらにペースを上げないとダメだと思います。そして単独での持ちタイムをもっと削らないと、本番でタイムを出したいというときにたつらなくなってしまうと思います。さらに速く走るためには、マシンの操り方など、とにかく富樫君とのスキルの差を埋めていくしかないと思っています』



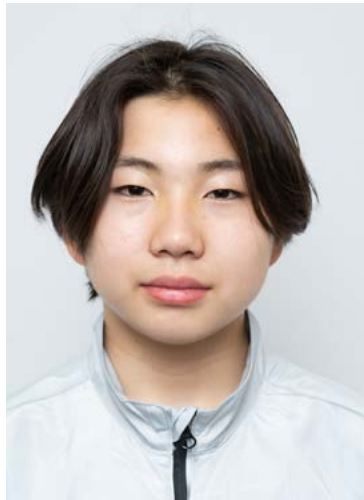
2025年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書



インターJ-GP3クラス:決勝総合2位(インター1位/NSFチャレンジ2位)◎予選10位

戸高 綸太郎(とだかりんたろう) 14歳

『今回の予選は久しぶりの雨ということもありましたが、バイクに自分を合わせることもできず、タイムも全く上げられずに終わってしまいました。もう少しラップ出来たらとも思いましたが、それは他のライダーも同じですので、限られた時間内でしっかりとタイムを出さないといけません。決勝では1周目にかなりプッシュできましたが、その後少し前の走者に引っかかってしまって、その間に富樫君に逃げられてしまいました。3番手に上がって追いついている時には、決していいペースとはいえませんが、まずまずのタイムは出せたと思いますが、(長谷川に)追いついてからのペースが全然上げられず、そこが大きな課題として残りました。長谷川君の後ろで走っている時には、行けるときに行ってしまうおうって考えていたりしましたが、いざ前に出ると、ペースを上手く作ることができませんでした。そういったところも大きな反省点です』



インターJ-GP3クラス:決勝総合10位(インター3位/NSFチャレンジ8位)◎予選13位

Pancharuch Chitwirulchat (15歳)

『鈴鹿を走るの今回は初めてでした。最初は怖かったですし、予選も雨だったので、怖さが残ったままでした。決勝は自分なりに頑張って走れたと思います。3位表彰台にも上ることができましたが、この結果には自分でも驚いています。鈴鹿サーキットはとても難しいサーキットでしたが、その難しさに走りを合わせられるように頑張ったつもりです。鈴鹿サーキットでの経験は、今後のレースでも生かすことができると思います。また鈴鹿サーキットにはシケインがありますが、これまでに経験はしたことがなく、とても苦手に感じました。今後はシケインのようなコーナーにも対応できるようしっかり練習したいです』



インターJ-GP3クラス:決勝総合13位(インター4位/NSFチャレンジ11位)◎予選タイムなし

Pongkhun Aeimnoi (14歳)

『予選では前のバイクについていこうと思い、少し慌てて転倒してしまいました。ですが決勝では完走することができましたし、ラップタイムも、自分のターゲットタイムを出せたので、その点でもうれしいです。とはいえ自分のライディングをコースにうまく合わせることはできませんでした。鈴鹿サーキットはアップダウンが多くて、タイのサーキットよりもかなり難しく感じました。特に1コーナーを越えてからしばらく続くS字のコーナーの脱出は上手いかなかったです。そういった点をもっと意識して練習したいです』



2025年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書



岡田 忠之Principal

『今回のレースでは予選で雨に見舞われてしまいましたが、決勝では路面に多少雨の影響があったものの、何とかドライでレースができました。ワンツースリーという結果で終われたことはとてもよかったと思います。その中でも富樫が決勝でナショナルレコードを記録しましたし、19秒台のアベレージで走るなど、とてもいい走りをしてくれました。HRSモト・アドバンスコースでは今年から南コースでのトレーニングを取り入れていますが、その成果が結果として現れました。トレーニングではCBR600Rでの走行も取り入れていて、このトレーニングも効果がありました。第2戦と今回のレースの間は、長い時間が空いてしまいましたが、その間もスキルを維持するのではなく、さらなる向上を目標に、新たなトレーニングメニューを増やしています。最終戦に向けて、南コースでのトレーニングは継続して行っていく予定です。富樫と戸高、長谷川には依然スキルの差はありますが、その差をもっと縮められればと思っています。また今回はタイのライダー2名も参戦しています。例年ですとどちらか1名が転倒リタイアという結果で終わっていますが、今回は2名ともチェッカーを受けていて、Chitwirulchatは表彰台にも上がれました。彼らにとっては初めての鈴鹿サーキットで、しかも予選で雨が降ってしまうなど、困難な状況でしたが、タイムも2分25.26秒台を出していて、ポテンシャルの高さを感じました。次回は事前にスポーツ走行も取り入れたうえで参加してもらえればと思います。HRSとしてはアジア全体のライダーのスキルアップを目指しており、今後もタイホンダとの協力はもちろん、様々な展開を考えています』

